

道岳連だより

広報 NO.73
平成27年1月10日
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-HAA.net/>

2015年の年頭にあたり

北海道山岳連盟会長 小野 倫夫



新年あけましておめでとうございます

北海道山岳連盟会員の皆さん、新しい年、いかがお迎えでしょうか。

去年は山岳界にとって喜びと悲しみの年になりました。

喜びは全国の登山愛好者が待ち望んでいた国民の祝日「山の日」制定です。

実施される来年からは、各地で山開きを含む様々な催しが行われるでしょう。国土の7割を占める山地は、古くから信仰の対象、自然の恵みを与えてくれるなど日常生活と深いかわりを持ちながら豊かな心も育んできました。

「山の日」は山の恵みに感謝し、この美しい自然を守り次の世代に引き継ぐことを銘記する日です。

悲しいことはあの御嶽山の噴火遭難事故です。火山国日本の決して避けられない、宿命的な出来事、我々も北海道にいて過去幾度も経験していますが、登山中の57名もの犠牲者が出たことです。

これからは事前に情報を把握することは言うまでもありませんが、慎重の上にも慎重に登山することを肝に銘じました。

さて、道岳連の去年は大きな活動として28回を数える全道交流登山会が室蘭岳連の主管で天候に恵まれたなか和やかな交流会となりました。

道遭難対策協議会との共催、「安全登山シンポジウム」は、プロスキーヤー佐々木大輔氏のヒヤリ、ハットに学ぶ危険予知、道警西村和隆氏の山岳遭難の実態と対策を軸に会場は熱心に聞き入って盛会でした。

ルスツで開催の第5回トレイルランニングも500人を超える参加者、大きなミス、トラブルもなく更なるレベルアップな大会にすべく検討に入っています。

各分野での活動では国体は7年連続の入賞と健闘し、各委員会の各種講習会、研修会など、概ね計画通り実施されています。

ここ数年、少子化、高齢化の状況ではありますが、登山人口は増えています。

登山カテゴリーの広がりや、自然回帰の傾向が広まってきた事が要因と考えられます。しかし、山岳会などの組織を避ける傾向は強いので、道岳連では安全登山に必要な情報、知識、実践ができるよう個人会員制度を発足させました。

すでに加盟希望者や問い合わせがあります。これによって800万とも900万ともいわれる登山愛好者の山岳遭難、事故を減らす事が目的です。

終わりに、今年も道岳連に、会員各位の旧年に倍するご支援、ご協力をお願いするとともに、皆様にとって充実した良い年であることを祈念して年頭の挨拶とします。

北海道山岳連盟個人会員募集開始

平成 25 年 12 月に特別委員会を設置して以来、約一年間に亘って検討してきた個人会員制度について、10 月の第 2 回理事会に「北海道山岳連盟個人会員制度細則」を提案し、条文の一部を修正のうえ議決となったことから募集を開始した。

案内には、「山登りは、一人で気軽に始めるのも楽しいけれど、山岳会に入り愉快的仲間たちと一緒に登ればより楽しいものです。また、登れる山も広がります。山岳会や登山クラブに所属せず、個人で山登りをされている方のニーズに応えるため、あるいは、入会する山岳会を決めるまでの間、山岳連盟の行事に参加したい方のために個人会員制度を設けました。」と呼びかけ、

★個人会員になるとできること ⇒ 道岳連の各事業(講習会・研修会・各種行事など)への参加。一般対象事業には会員割引あり。「道岳連だより」の直送。登山に関する情報、相談、支援の提供。個人が起こした山の遭難などへの相談・支援。個人会員同士および道岳連加盟団体との連絡交流。会員証の交付。

★入会の条件 ⇒ 山岳保険の加入(日山協山岳共済)。会費の納入(年会費 5,000 円)。安全登山と自然保護の実践。登山者としてのマナーを守る。ことを明記し、道岳連の活動を紹介している。申込み・問合せ先は、荒堀英雄総務委員長



新しい仲間と登山を楽しもう

平成26年度安全登山シンポジウム開催

平成 26 年 11 月 5 日・札幌エルプラザ

平成 26 年の北海道山岳遭難防止対策協議会(道遭対協)および北海道山岳連盟(道岳連)共催の「安全登山シンポジウム」は、去る 11 月 5 日札幌エルプラザで開催された。

今年は、北海道警察本部山岳救助隊救助対策官の西村和隆氏と、NHKテレビで放映された利尻岳大滑降のプロスキーヤーで国際山岳ガイドの佐々木大輔氏を講師に招き、約 200 名の山岳愛好者を集めて実施された。昨年の三浦雄一郎氏の講演に比べると多少参加者が少なかったが、内容としては昨年を上回る充実したものとなり、参加者は概ね満足したのではないかと思われた。

長年日本の山岳地域として最も広大な北海道で、山岳遭難救助に邁進されている西村氏の講演は、より身近な北海道山岳遭難の詳細な統計分析に基づいた貴重な体験談に基づく提言であり、我々北海道の山岳界に大いに参考になった。これは北海道の山岳遭難防止に必ずや役立つものであった。

佐々木大輔氏の講演は、プロスキーヤーとしての講演と言うより、3月に起こった立山真砂岳の雪崩遭難現場での山岳ガイドとしての分析に基づく、冬山登山者および山スキーの心構え



に対する助言と言った内容のもので、北海道の山岳愛好者だけでなく、山岳指導者にとっても大きな教訓と示唆を与えてくれた。

特に佐々木氏の講演は、利尻岳大滑降を中心とした講演を期待していた参加者には意外な内容になったが、シンポジウムの趣旨に則った素晴らしい講演だったと、参加者は無論のこと主催者としては満足と感謝に値するものとなった。



このシンポジウムは2009年7月のトムラウシ山大量遭難をきっかけに、北海道総務部危機対策局が音頭をとって、道遭対協主催としてはじめられたものである。ところが道遭対協そのものの運営を公的な機関が行うのは相応しくないとの道総務部危機対策局の見解から、同局の懇請によって事務局が道岳連に移されたものである。さらに、この安全登山シンポジウムの事業運営も2013年から道岳連に委ねられることになった。

道岳連がこのシンポジウムの実施で真っ先に直面した問題は、運営特に講師料をどう賄うかの資金面であった。結局、秀岳荘など道内山岳関係企業の協賛を得ることで賄うしか方法がなく、何とか昨2013年は三浦氏のご好意もあって実施することができた。今2014年もまた企業に全面的に依存することは難しいと判断して、発足以来参加料を無料にしてきたこのシンポジウムも、初めて有料とする決断をしたのである。結果的に企業の協賛金と入場料で昨年並みの資金が捻出できた。

このシンポジウムの成功には、講師のお二人は無論のこと、道内山岳関係企業の協力および、夜遅い講演会にもかかわらず足を運んでいただいた山岳愛好者の皆さんの絶大なご支援の賜物と、主催者として大いに感謝申し上げたい。本当にありがとうございました。（理事長 神山 健）

第28回北海道山岳連盟交流登山会室蘭登別大会

今年の交流登山会は、室蘭山岳連盟、登別嶺友会が主管し、8月30日-31日の二日間室蘭岳夏道～西尾根下山など全7コースに全道から会員及び役員総勢231名が参加して開催された。

一日目は、会場の室蘭岳山麓総合公園（だんパラ公園）特設芝サイトで受付とテント設営。リーダー会議を経て16:00からスキー場休憩所屋内で開会式を行う。室蘭市長、室蘭体協会長の来賓祝辞を受け、室蘭民報社が寄贈した室蘭岳山頂看板セレモニーを行った。アトラクションは屋外に移動し、「室蘭和太鼓會」の勇壮な演奏を堪能、交流会へ移った。



二日目は、それぞれ7つのコースに分かれて登山。天候にも恵まれ西胆振の山々を楽しんだ。各コース担当リーダーの報告の中で、唯一の沢登りコースで26名が参加した③コース(滝沢～室蘭岳北尾根)の報告書を掲載する。

次年度の第29回大会は、道北の秀峰天塩岳で朝日山岳会が主管して6月に開催予定。

室蘭岳滝沢から北尾根へ

担当 室蘭岳友会

8月31日朝6時、だんパラを出発。約1時間ほどで滝沢コース駐車場に到着。このコースには、ロビニア山岳会7人、ほしがらす山の会3人、函館マウンテンクラブ3人、芽室山の会1人、音更山の会1人、そして岳友会11人の計26人です。

7時10分出発。林道を歩くこと30分、入渓地点到着。昨日の雨により若干水量が多いか。会によりハーネスを着けているところもあるが、さすが山のベテランたちである。順調に遅れることなく歩を進めていく。ナメから大岩、連滝へと水量が多いので水の流れに見応えがあります。今大会の為、室蘭岳友会は何回か滝沢に下見山行を行い、固定ロープの張替や悪路の整備をしました。特に滝沢の終わり鞍部直下の泥壁場の難儀する場所では階段まで作ってあり、我が仲間とはいえご苦労さんでした。

途中では、ボリボリが出ていて帰りのお土産ができ、大変喜んでおりました。

苔滝、大滝。F7と順調に登り終え、鞍部には入渓より2時間弱で登り終えました。コルより室蘭岳頂上へは1時間で到着。各コースの到着もほぼ同じで、頂上が賑わいました。さて、北尾根の下りとなりますが、沢靴での下りとなりますが、沢靴での下りは大変滑りやすく難儀が予想されます。慎重に下りますが、それでも何人かが滑り、何回か尻もちをつきました。それでもどうにか終わり、車道に無事着きました。駐車場までもうすぐ。皆さんご苦労さんでした。



(C L 目黒 正晴)

第69回国民体育大会(長崎国体)山岳競技

天皇杯5位…7年連続9回目の入賞

第69回国民体育大会の山岳競技は、平成26年10月17日から19日の3日間長崎県大村市で、リード…大村高校山岳競技会場、ボルダリング…大村公園山岳競技特設会場で開催された。

競技結果

成年男子	リード	4位 (入賞)	ボルダリング	6位 (入賞)
成年女子	リード	9位	ボルダリング	3位 (入賞)
少年男子	リード	7位 (入賞)	ボルダリング	8位 (入賞)
少年女子	リード	10位	ボルダリング	11位
男女総合成績 (天皇杯)		5位 (7年連続9回目の入賞)		
女子総合成績 (皇后杯)		10位		

国体を振り返って

今国体の北海道山岳チームは、次のメンバーで構成された。

成年男子は、2004年埼玉国体より8年連続して国体に出場し、ここ2年間は監督として参加していた國谷斗馬選手と、2007年秋田国体より今回で連続8回目の出場となる杉本怜選手のコンビである。杉本選手は2013ボルダリングワールドカップミュンヘン大会で優勝し、他にも数々の国際大会で活躍している日本を代表する選手である。今回と同じ國谷・杉本のコンビで2011年山口国体ではボルダリングで優勝している。

成年女子は、國谷選手と同じく2004年埼玉国体より今回で11回目の国体出場、しかもそのすべてで入賞している萩原亜咲選手と、2010年千葉国体以来コンビを組んで5年目になる一安瑛子選手のチームである。両選手は2010～11年、ボルダリングで全国初の連続優勝を果たしている。

少年男子は、遠軽高校3年の松浦凌選手と江別高校2年の武者知希選手のコンビ、2人とも国体初出場であるが、今年3月に行われたJMAユース日本選手権では松浦選手6位、武者選手10位、8月に行われたJOCジュニアオリンピックカップ大会でも武者選手9位、松浦選手14位という好成績を収めている。

少年女子は、2011年山口国体から連続4回目の出場となる北海学園札幌高校3年の佐々木里穂選手と、初出場の遠軽中学校3年の菅原未紗選手である。佐々木選手は、ワールドカップでも活躍した小武芽生選手と組んで昨年まで2年連続で入賞を果たしている。新星、菅原選手とのコンビでどこまで上位に迫れるか楽しみな大会であった。

今回の大会に向けて少年選手は昨年度より継続して強化を進めてきたし、9月には成年選手も合同で3泊4日の道外合宿を行った。成年選手の中には普段から少年選手を指導しているコーチも含まれており、日頃の強化練習や道外合宿を通してチームとしてのまとまり、団結力といったものも充分培われたものと思う。近年、入賞記録を重ねてきた北海道山岳チームは、今年も一丸となって上位入賞を目指し長崎入りした。

競技1日目（※ 結果のみ掲載…競技経過の詳細は道岳連HP国体委員会のページを参照）

成年男子ボルダリング予選 ⇒ 杉本 全選手中個人成績1位、國谷 2課題完登 チーム2位で通過
成年女子ボルダリング予選 ⇒ 萩原 全選手中個人成績2位、一安 2課題完登 チーム1位で通過
少年男子リード予選・決勝 ⇒ 予選7位通過。決勝で両選手健闘するも予選と同じ7位で入賞
少年女子リード予選・決勝 ⇒ 両選手健闘するが予選10位で決勝進出逃す



ボルダリング



リード

競技 2 日目

成年男子リード予選 ⇒ 杉本 完登、國谷 32+ チーム 3 位で通過

成年女子リード予選 ⇒ 萩原 38+、一安 24+ あと一つというところで決勝進出逃す

少年男子ボルダリング予選 ⇒ チーム 8 位で予選通過

少年女子ボルダリング予選 ⇒ チーム 11 位で決勝進出逃す

成年女子ボルダリング決勝 ⇒ 予選 1 位で 2 日目の最終競技者となるが、惜しくもチーム 3 位

最終日

少年男子ボルダリング決勝 ⇒ 国体初出場の二人だったが予選同様の 8 位で入賞

成年男子リード決勝 ⇒ 杉本 1 位選手と 1 手半差で個人 2 位、國谷 24+ チーム 4 位で入賞

成年男子ボルダリング決勝 ⇒ 3 課題中チーム完登数 1 で 6 位入賞

3 日間を通しての男女総合成績、天皇杯順位は第 5 位(第 1 位は千葉県)となり、昨年と同じ順位であるが、これで 7 年連続 9 回目の天皇杯入賞となり記録を更新した。

また、2003 年静岡国体以来、12 年連続で種目別賞状を持ち帰ったことになる。選手の努力の賜物といえようが、これも強化コーチはじめとする多くの方々のご指導と、山岳連盟の皆様、その他多くの方々のご支援があつてこそ成し遂げられたものである。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました。

(少年男子監督 山納 秀俊)

北海道トレイルランニング大会 2014

北海道アウトドアフェスティバル in ルスツは、同実行委員会が主催、北海道山岳連盟・北海道オリエンテーリング協会が共催し、20 日ロゲイニング、21 日トレイルランニングをルスツリゾート周辺で開催した。

今回で 6 回目を迎えたトレイルランニング大会は、昨年をさらに上回る 525 人のランナーが 6 種目の競技にエントリーした。最も距離が長い 70 km は 103 名のうち規定時間内に閉門を通過し、ゴールしたのは男女あわせて 57 名(完走率 55.3%)。この過酷なレースを制したのは、昨年に引き続き大田原 寛選手(ビッグワン)で、タイムは 8:39:29。

道岳連は、準備段階から多くの会員が関わり、大会前日の 20 日午前 10 時に全道各地から現地入りした競技役員委嘱会員 59 名が選手の安全や大会の円滑な運営に大きく貢献した。

★大会プログラム、リザルトは道岳連 HP (大会公式サイト)

次年度の大会に関して、実行委員会は FaceBook で下記のように記している。



前日の役員現地打合

本日(11/25) 実行委員会が開かれました。2015 UTMF の開催日が 9 月 25-27 日、STY が 9 月 26 日と発表されたことにより、本大会の開催日と完全に重なることが判明しました。しかし本大会は当初の予定通り 26 日にロゲイニング、27 日にトレイルランニングを開催することが確認されました。

トレイルランニングのコースについては、諸事情により変更をする予定ですが、今日の実行委員会で結論が出ませんでした。

ただ、本日の見込みでは、多少コース距離が伸びる方向で検討が進んでいるようです。来年も、キツイコースで参加者をお迎えできると思います。



70km は午前 4:30 スタート

行事・各種事業報告

第54回全日本登山体育大会徳島大会 10/9-13 剣山ほか

54回目を迎えた全日大会は、10月9日～13日まで徳島県の最高峰“山岳信仰と平家伝説のロマンが漂う山”剣山(1954.6m)周辺のコースで開催され、道岳連からは小野会長、土屋副会長、宮西監事、荒堀総務委員長、岩見沢岳連佐藤、小樽山岳会青山、十勝岳連西谷の各氏7名が参加した。

全国から178名、徳島県岳連役員約100名が集い、開会式では小野会長が10回参加表彰、荒堀委員長が大分県岳連代表とともに参加者宣誓をした。

次年度は、宮城県山岳連盟が主管し、栗駒山集中登山で開催される。



開会式で宣誓する荒堀委員長



剣山山頂を望む

第2回理事会 10/19 札幌市民ホール

平成26年度北海道山岳連盟第2回理事会は、札幌市民ホールで63名(委任状26)の理事が出席して開催された。議件として1号議案 平成26年度前期事業報告について 2号議案 平成26年度後期事業予定について 3号議案 個人会員制度について 4号議案 各種議題 5号議案 その他 が提案された。

小野会長は山の日制定、御嶽山噴火災害、国体ボルダリング成年女子3位入賞などを開会挨拶で触れた。神山理事長は平成26年度の前期を振り返り、11項目の取り組むべき課題の成否を検証する中で、道岳連HPやリーフレットに加盟山岳連盟、山岳会の一覧掲載、連盟事業に開催地山岳会の協力、山岳指導員の活用場の拡大、安全登山シンポジウムの充実、個人会員制度の早期発足やトレランの定着などは実現にこぎつけ、目途をつける事ができた。一方で、情報のデジタル化、連盟加盟団体の相次ぐ脱退、道岳連財政問題、SC上級指導員養成など課題や改善検討を要する項目を取り上げ、各団体の道岳連運営に対する一層の協力を要請した。

議案審議では、1号議案、2号議案は質疑応答を経て承認、3号議案の個人会員制度細則(案)については、一部条項の文言整理を付して承認。4号議案の組織・管理運営規則の改定、「安全登山シンポジウム」開催に関する経過説明、各専門委員会が管理する備品一覧の提示があった。5号議案その他では、出席理事より・女性役員の配置・役員(常任理事)の専門委重複などについての質疑があったほか、恵庭岳の山岳情報が提供されている。

日高登山研修所納会 11/1-2 日高登山研修所・北日高岳

今年度の日高研修所納め会は、加盟団体会員 64 名、運営委員 5 名の計 69 名が参加した。受付後に内外の大掃除、冬囲いを行い、各会場に分かれて専門委員会の会議を実施、千栄会館に会場を移動して指導委員会の全体研修会を行った。

その後、夕食・懇親会に移り、今年度の「生涯スポーツ功労者表彰」を受賞した鎌田耕治顧問が銀杯をお披露目して参加者が祝福するなど、和気あいあいのうちに交流を深めた。今回の食事担当は登別山岳会で、交流登山会に引き続きお世話になった。

二日目は、近郊の北日高岳登山とクライミング制動確保研修、応急手当グループに分かれてそれぞれ実技研修を実施し解散した。



生涯スポーツ功労賞受賞した鎌田顧問



各グループに分かれて実技研修

鎌田顧問 平成 26 年度生涯スポーツ功労者表彰

地域または職場におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者を「生涯スポーツ功労者」として文部科学省が表彰するもので、今年度は 156 名が表彰された。鎌田耕治顧問はじめ北海道からは三名が受賞し、10 月 10 日東京都で表彰式が行われ、文部科学大臣から表彰状と銀盃が贈られた。

北海道山岳団体交流会 11/6 ロイトン札幌

今年度の北海道山岳団体交流会は、11 月 6 日(木)北海道山岳ガイド協会が今回の幹事団体として準備をすすめ、ロイトン札幌「万里」で開催された。参加団体は、北海道山岳連盟、北海道勤労者山岳連盟、日本山岳会北海道支部、札幌山岳連盟、北海道道央地区勤労者山岳連盟、HAT-J 北海道支部、日本ヒマラヤ協会、山のトイレを考える会、北海道山岳ガイド協会の 9 団体 45 名。それぞれの参加団体から活動状況報告や特徴的な取り組みのプレゼンテーションがあった。

道岳連からは、小野会長ほか 7 名、札幌岳連は佐藤会長ほか 5 名が出席して交流を深めた。

冬期遭難対策研修会 12/6-7 三段山・吹上温泉保養センター-白銀荘

平成26年12月6日から7日の2日間に亘り十勝岳連峰三段山山麓において、一般参加者5名、会員14名、スタッフ6名の総勢25名が参加し、冬期遭難対策研修会を実施しました。この時期としては例年になく積雪のない状態が続き、開催が危ぶまれましたが前々日から降雪があり実施することができました。



室内研修

初日は、野外でビーコンの特性を検証と短時間で複数の遭難者を捜索する訓練を行い、引き続き室内で道内の山岳事故の状況と、ここ数年の推移や御嶽山の噴火と道内火山の状況、今話題の遭難者を捜すための機器「ヒトココ」の性能について、事故に遭わないための雪崩の判断の講義。次の日の準備も併せロープワーク、スタンディングアックスビレーの方法について研修を行いました。

2日目は、4班に分かれキャンプ場の斜面を使っての笹を支点としたロープ引き上げ2分の1・3分の1・4分の1など状況に応じての使い方や、スタンディングアックスビレーの種類と実施訓練を行いました。

今回の研修を通じて、ビーコン性能の向上に対し、隣の班の干渉や送受信の切り替え徹底においても操作ミスはありました。また、スタンディングアックスビレーも状況に合わせた訓練が必要と感じました。参加者からは、実践で技術の使い方の違いや感覚を養えられたことに好評を得ることができました。
(遭対委員長 齊藤 邦明)



複数の発信源捜索



引き上げ研修



山足でスリングを踏むビレー

夏山講習会Ⅲ 9/6-7 十勝岳・美瑛岳・国立大雪青少年交流の家

夏山講習会Ⅲは、参加者42名(うちスタッフ11名)で実施。一日目は小野会長のあいさつの後、座学講習として①十勝岳・美瑛岳の地形、火山の変遷(神山理事長)②十勝岳エリア登山道整備と問題点(内藤自然保護委員長・美瑛山岳会)と題し映像を交えた講義③読図の基礎…コンパスの使い方(新井普及委員・苫小牧山岳会)では、座学に加え屋外での実践研修を行った。

二日目は、十勝岳⇄美瑛岳を二班に分けて交差縦走を行う。以下行動記録を掲載。

《美瑛岳⇒十勝岳縦走班 参加者18名 スタッフ4名》

午前4時起床。大雪青少年交流の家「ゆーすびあ大雪」を出発、望岳台に向かう。(5:10)望岳台にて出発準備。予報では好天のはずが曇り空。しかし行動には問題なく、ストレッチの後出発。(5:40)泥流ルートをやつくりと歩いて行く。美瑛岳分岐で、地形図を使ってコンパスを美瑛岳方角

にセット。次に硫黄沢川に設置されたケーブルと泥流センサーを確認、なるほどと納得。イワギキョウとアキノキリンソウが僅かに咲き残る雲ノ平を過ぎ、枯れ沢の崩壊した場所に。ここはかつての登山道が崩壊し、先ごろ美瑛山岳会の手で修復されたばかり。一人ずつロープで谷に下り梯子で登り返す。ポンピ沢渡渉点では、これからの急斜面の登りに備えて大休止。美瑛富士分岐までの約250mの急斜面を、焦らずゆっくりと登って行く。途中視界が晴れて歩いてきた雲ノ平が見え、一同感嘆の声が上がる。美瑛富士分岐ではまた美瑛岳方向にコンパスをセット。ニセピークに騙されながら我慢の登り、ついに美瑛岳に到着(10:25)

CLの「ここで引き返したい人はいますか？」の問いに、だれひとり頷く人はなく、元気良く十勝岳に向かって縦走開始。(10:40) 美瑛岳から下って行くと、早くも十勝岳縦走グループが上がってきて交叉。なんだか久しぶりに会ったような懐かしい気分。鋸岳コルからはグザグザのアリ地獄的な急斜面を登らなければならず、ここが一つのネック。稜線に上がり新得側コースとの分岐、あとは頂上まで登り僅か。十勝岳頂上着。(13:05) スタッフ(通信担当)の玉木さんが出迎えてくれました。記念撮影をして望岳台に向かって下山。(13:20) 避難小屋の下の泥流ルートは石ころゴロゴロの歩きにくい道で、疲れた足には本当にこたえる。既に下山していた十勝岳縦走グループの待つ望岳台に到着。(16:10)

当日は曇り空ながら、要所要所ではガスも晴れて景色を堪能。予定時間を少々オーバーしたものの、参加者全員怪我もなく縦走を果たし、登山会を終了しました。(報告 新井 素子)



北向沢渡渉点



十勝岳山頂

《 十勝岳⇒美瑛岳縦走班 参加者 14 名 スタッフ 3 名 》

望岳台 5:40 十勝岳避難小屋 6:50-7:00 十勝岳 9:10-30 鋸岳横通過 9:55 ポンピ岩稜で美瑛岳班と交差交歓 11:10 美瑛岳 11:45-12:00 ポンピ沢渡渉 13:55 望岳台 15:35

行動中全体的に c1900m以上は雲の中で、時折下界やかろうじて。下ホロは見えたが富良野岳、十勝岳、美瑛岳の遠望は望めなかった。ポンピ岩稜東斜面は一面チングルマの綿帽子、下方には紅葉で赤黄緑の絨毯のすばらしい模様が見えた。

行動は全員同一会員(遊悠倶楽部が集団参加)、普段一緒に行動されている方々なので足並みがそろろう。視界は悪く、気温も低く休憩は短めとした。美瑛岳の下りは疲れの出る頃、慎重にゆっくり行動となり、北向沢のハシゴとロープは時間がかかるので超えた人は先に行ってもらい、全員無事完走が出来ました。(報告 土屋 勲)



美瑛岳山頂

担当から一言（普及委員会 秋元篤男）

★地元山岳会の協力

今回も普及事業は地元山岳会、十勝岳・美瑛岳を知り尽くす美瑛山岳会・旭川山岳会に協力をいただきました。美瑛山岳会（内藤さん）は、登山道に覆い被さる笹刈りを事前にやってくれました。また、座学では崩壊の進んだ沢形の状況を説明してもらい、梯子段やロープ使用に不安を感じていた参加者は、話を聞いて安心して登山に向かうことができました。十勝エリアに詳しい旭川山岳会から二人のリーダー（土屋さん、音尾さん）を出してくれたのも助かりました。

★今回の山行の狙い（参加者が学んだこと）

縦走中に仲間と出会う、交差縦走という山行形式が楽しい。十勝岳・美瑛岳の雄大な火山地形が面白い。火山礫に覆われた地形なので、いつも以上に道迷いに注意することが必要、だから、登山活動の基本である読図が意味を持つ。これらが夏山講習会最終回（3回目）「十勝岳・美瑛岳」の狙いであった。今回の山行をきっかけに、山行前の地図読み、山行中の地図読みを積極的に行い、さらに登山を楽しんでいただいたら、普及事業担当としてはうれしい限りです。

第17回 JOC ジュニアオリンピックカップ大会 8/2-4 富山県南砺市

日山協が主催する JOC ジュニアオリンピックカップ大会は、8月2日から4日までの3日間に亘って富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンターで開催された。北海道選手は、6月8日に美瑛市で開催の予選大会で選抜された男子4名、女子3名が出場した。引率・監督は畑野和宏（遠軽高校）、佐藤修一（美瑛尚栄高校）。

北海道選手の成績

武者 知希	江別高等学校 2年	男子ユースA	9位/47人
松浦 凌	遠軽高等学校 3年	男子ユースA	14位/47人
岸本 武蔵	美瑛尚栄高等学校 2年	男子ユースA	19位/47人
白戸 隆雅	札幌真栄高等学校 2年	男子ユースA	26位/47人
小武 芽生	北星学園女子高等学校 2年	女子ユースA	7位/29人
亀田 桃子	遠軽高等学校 3年	女子ジュニア	16位/16人
菅原 未紗	遠軽中学校 3年	女子ユースB	17位/23人



大会レポート（畑野監督の大会レポートは、最終日の決勝から掲載。詳細は道岳連HPクライミング委員会参照）

最終日、決勝進出は小武、武者の2名。男子の決勝進出者は2010年の杉本、菅原、佐藤以来4年振りである。決勝ルートは男女とも2つの壁を利用した「渡り」がある。男子はA、B壁で13C

くらい、女子はC、D壁で13A/Bくらいの高いグレードに見える。武者は下部の遠いホールドにもひるまず思い切りよく進む。11枚目のかぶりから3つ続くアンダーにも耐え、さらに1手伸ばしてフォール、単独9位となる。2大会連続（JMA、JOC）の決勝進出は見事であった。

続いて小武、リードの全国大会では唯一優勝してないこの大会、ぜひ完登で決めてもらいたい。下部は余裕もあり落ち着いて進む。かぶってから効果的にレストを入れ期待が高まる。38手目のムーブで「迷った」という動きが届かず37+でまさかのフォール、7位という結果となった。本人は不本意かもしれないが、成長著しいユース女子の中で、優勝を争う力を発揮しているところが北海道チームとして誇らしい。

3日間の日程を終え、男子の強化策が実りつつあると実感できた大会であった。また女子についても小武、佐々木に続く選手が育ちつつあるのを感じる。しかし、アンダーユース、ユースB等を見ると他の都府県も急速に力をつけており、北海道としてもより一層の強化（様々なタイプのホールドへの対応、30手過ぎからのボルダームーブ等）が必要と感じた。

北海道山岳連盟ユース強化選手（平成26年11月～27年7月）

- | | |
|---------------------|------------------|
| (男子) 高木 智和 札幌工業高校2年 | 武者 知希 江別高校2年 |
| 岸本 武蔵 美唄尚栄高校2年 | 白戸 隆雅 札幌真栄高校2年 |
| 平岡 直樹 遠軽高校2年 | 小杉 虎彦 札幌光星高校1年 |
| 亀田翔太郎 遠軽高校1年 | |
| (女子) 梅田 萌夏 北見北斗高校1年 | 落合 優衣 遠軽高校1年 |
| 菅原 未紗 遠軽中学校3年 | 佐藤いぶき 札幌中の島中学校2年 |

第13回スポーツクライミング北海道選手権大会

兼第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会北海道予選会

兼第55回札幌市民体育大会クライミングコンペ 10/28 北海道科学大学体育館

参加者数 選手 オープン男子 10名 オープン女子 2名 ジュニア男子 34名
 ジュニア女子 12名 ビギナー 4名 キッズ 16名
 選手計 78名 競技役員 29名 選手・役員合計 107名

大会成績（入賞者）

《オープン男子》 1位 松浦 凌(遠軽高校3年) 2位 梅津 恒平 3位 難波 幸祐	《オープン女子》 1位 片山 紗季(酪農学園大学2年) 2位 塚野 萌美(酪農学園大学2年)
《ジュニア男子》 1位 岸本 武蔵(美唄尚栄高校2年) 2位 白戸 隆雅(札幌真栄高校2年) 3位 平岡 直樹(遠軽高校2年)	《ジュニア女子》 1位 佐々木 里穂(北海学園札幌高校3年) 2位 菅原 未紗(遠軽中学校3年) 2位 佐藤いぶき(札幌中の島中学校2年)
《ビギナー》 1位 柄澤 海(北海道科学大学1年) 2位 佐々木 暁(札幌本町中学校1年) 3位 香川 裕登(富良野緑峰高校1年)	《キッズ》 1位 井上 桜花(札幌三角山小学校4年) 2位 竹内 悠真(札幌川北小学校6年) 3位 坂本 大河(札幌常盤小学校6年)

第5回全国高等学校選抜クライミング選手権大会代表選手

《男子》松浦 凌（遠軽高3） 武者 知希（江別高2） 岸本 武蔵（美唄尚栄高2）
白戸 隆雅（札幌真栄高2） 平岡 直樹（遠軽高2） ※松浦、武者選手は日山協推薦
《女子》佐々木里穂（北海学園札幌高3） 梅田 萌夏（北見北斗高1） 落合 優衣（遠軽高1）
水野 亜弥（遠軽高1） ※佐々木選手は日山協推薦
《団体》男子 遠軽高校 女子 遠軽高校



自然保護指導員等研修会 9/27-28 東川町・天人峡

平成26年度の自然保護指導員等研修会は、エコツーリズムに取り組む大雪山旭岳山麓の東川町で、9月27日～28日の2日間に亘り19名が参加して開催した。

1日目は、「東川町道草館」二階会議室で、大雪山国立公園における登山道の協働型維持業務をはじめとする山岳自然環境保全の現状と、道南の黒松内岳で実施している登山道整備の事例がそれぞれの講師から発表された。

環境省東川自然保護官事務所の岸田自然保護官は、大雪山の登山道管理水準の改訂の方向性、広大で自然環境の厳しい大雪の登山道や施設の維持管理の困難性に鑑み、今後も関係者の協力の下、協働型を推進していきたいとの説明と要請があった。室蘭岳友会の辻野講師は、「自然に溶け込む山の道づくり」をテーマとし、地元で取り組む「近自然工法」による黒松内岳登山道整備を土木工学の専門的解説も交えて発表した。3日目は環境省との契約で協働型登山道維持業務を2年間モデル的に実施した事例を美瑛山岳会内藤理事長が報告。ボランティアで募集した参加者は延べ99名に及び、十勝岳連峰2路線の補修資材の荷揚げや補修を実施し、その成果と課題の検証結果を説明した。研修の最後は、講師を交え講演や事例発表を受け、組織山岳会は登山道整備等にどう関わるかをメインに参加者による討論をして1日目を終了する。



事例発表会場

2日目は、昨年と今年、旭川山岳会などが呼びかけ人になって協働型で整備した天人峡化雲岳線登山道、三十三曲りから滝見台までのフィールドワーク。倒木や石材など現地調達資材で三十三曲りの急斜面に施工した土留めや階段を確認。復路では、段差の大きな箇所土留め、辻野講師による実践講習が始まり、大小の石をみんなで集めステップになる丸太を埋め込んで歩きやすく安全な

歩道を完成させた。次回の研修会は、公園・国有林管理者の承認を得てグループ分けし参加者で実際の作業をしてみるのも楽しいかもしれない。

下山後は、佐藤副会長に二日間の講評をいただき散会した。

(報告 自然保護委員長 内藤 美佐雄)



天人峽三十三曲りで補修作業

山岳スキー指導員研修会 12/20-21 札幌国際スキー場ほか

道岳連指導委員会と山岳スキー運営委員会が主催する「山岳スキー技術研修会」第1弾が、「初心者及び初・中級山スキーヤー研修会」を兼ねて26年12月20日～21日の日程で、札幌国際スキー場と大沼山を会場に24名が参加して開催されました。

札幌国際スキー場に10:00集合。各班に並び山岳スキー運営委員長からの挨拶。班ごとの行動でゴンドラに乗り、研修会の始まり。雪質も良く天気はまあまあですが、時折強風が吹く中実技研修を終える。14:30に時計台へ集合し宿泊先・道新荘へと流れる。

昨年同様の綺麗なお宿。16:00からの机上講習も熱のこもった講義で寝る余裕がなかった。夕食場所を替え懇親会盛り上がりしました。今話題の「マッサン」を飲んであつという間の売れ行き。



翌日は悪天候が徐々に経過してきているので、豊羽鉦山の大沼山へ行くが視界が良くない。875mピークにて撤退する。



A・B・C班は滑走。D班はゆっくり滑走。此处で来年度の課題として、「初心者を中心に大事に見つめてやって下さい」。初心者を育てていかなければ、山岳スキーは、上級・中級者の集団だと底辺は育たないと思います。

二日間、皆さんご苦労様、お疲れ様でした。

(記録 藤木 たか子)

今後の諸行事

氷壁技術講習会 海外登山委員会・指導委員会

1. 期 日 平成27年1月17日(土)～18日(日)
2. 会 場 層雲峡 銀河の滝周辺 宿泊 層雲峡温泉ペンション銀河(予定)
3. 対 象 道岳連加盟団体会員(初心者歓迎) 募集定員30名
4. 参加費 15,000円(宿泊代・夕朝食代、講習会費含) ※キャンセルは実費徴収
5. 日 程 17日(土) 11:00 銀河の滝駐車場集合 12:00-15:00 基本動作確認～宿舎移動
19:00- 机上研修
18日(日) 8:30-14:00 技術レベルに応じたコースでの登攀～現地解散
6. 申込み 所定の用紙に記入しFax又はメール(参加料振込は 平成27年1月8日まで振込)
問合せ・申込み先 工藤 寛 Tel&Fax 011-386-2725 090-8272-9398 (7:00～20:00)
e-mail elm-yama@h7.dion.ne.jp
振込先 ゆうちょ銀行→ゆうちょ銀行
記号19090 番号37051291 (振込手数料無料)
他銀行・信金等→ゆうちょ銀行
ゆうちょ銀行(店名九〇八) 店番908 番号3705129 (振込手数料各自負担)
共に口座名 北海道山岳連盟国際部
7. 携行品 昼食、行動食、長靴(川渡渉用)、ストック、冬装備、ヘルメット、ハーネス、アイゼン、アックス類、クライミンググローブなど(貸出装備あり⇒要問合せ)
8. 保 険 講習会での事故については応急の処置は致しますが、それ以上の責任は負いませんので、各自クライミング時の事故を担保する保険に加入してください。

冬山講習会 普及委員会

part1(基礎編) カムイスキーリンクス周辺

1. 期 日 平成27年1月17日(土)～18日(日)
2. 会 場 実技 カムイスキーリンクス及び神居山・音江山
宿泊 道立深川青年の家 0164-25-2059 (座学講習含む)
3. 対 象 道岳連加盟団体会員及び一般登山愛好者
募集定員25名(山スキー・テレマークスキー・スノーシュー)
4. 参加費 12,000円(宿泊費、講習料、傷害保険料) ※道岳連会員 11,000円
5. 内 容 冬山の基礎知識(冬山の装備、地図、コンパス、気象、雪崩の基礎)と山スキー、テレマークスキー、スノーシューの技術講習
17日(土) 9:30 カムイスキーリンクスロッジ2F集合
18日(日) 神居山⇒山スキー・テレマークスキー
音江山⇒スノーシュー
☆主任講師 西谷 芳晴(山スキー) 上野 英孝(テレマークスキー)
新井 孝(スノーシュー)
6. 申込み・問合せ 秋元 篤男(普及委員会)
Tel&Fax 011-583-3016 e-mail akimoto-s@jcom.home.ne.jp

part 1 (応用編) 日勝峠周辺

1. 期 日 平成27年2月7日(土)～8日(日)
2. 会 場 実技 日勝峠周辺の山
宿泊 国立日高青少年自然の家 01457-6-2311 (座学講習含む)
3. 対 象 道岳連加盟団体会員及び一般登山愛好者
募集定員30名(山スキー・テレマークスキー・スノーシュー)
4. 参加費 13,000円(宿泊費、講習料、傷害保険料、現地バス) ※道岳連会員 12,000円
5. 内 容 冬山の応用知識(アクシデント対策ほか)と実践
スキー&スノーシューで厳冬期の雪山を体験する
7日(土) 9:30 日高青少年自然の家駐車場集合。日勝峠まで専用バスで移動。
8日(日) 日勝峠まで専用バスで移動。1327峰、熊見山ほか雪山を遊び学ぶ
☆主任講師 Part 1に同じ
6. 申込み・問合せ Part 1に同じ

山岳スキー技術研修会 指導委員会・山岳スキー運営委員会

1. 期 日 平成27年1月24日(土)～25日(日)
2. 会 場 日高国際スキー場及び日勝峠周辺ピーク
宿泊 国立日高青少年自然の家 01457-6-2311
3. 研修内容 山岳スキー滑走・雪崩対策&氷雪技術(アイゼン&ピッケルワーク)
① 実践山岳スキー深雪滑走及び雪崩対策(セルフレスキュー)
② 山岳スキーによる氷雪技術(アイゼン&ピッケルワーク)
③ SABによる制動確保(スタンディング・アックス・ビレイ)
担当 石川 孝一 藤木 晴夫
4. 対 象 道岳連加盟団体会員 募集定員20名 (平成27年1月12日締切)
5. 参加費 7,000円(一泊二食) ※スキー場リフト代金個人負担、実情交流会費別途徴収
6. 日 程 1月24日(土) 9:00 日高国際スキー場休憩所集合 開会式
9:30-15:00 スキー滑走・雪崩対策及び氷雪技術(アイゼン&ピッケル)
15:30 集合、宿舎へ移動
16:30-18:00 制動確保研修(スタンディング・アックス・ビレイ)
19:00-21:00 実情交流会
25日(日) 8:00-14:30 日勝峠へ移動 日勝ピーク登高
実践山岳スキー&アイゼン&ピッケルワーク(SAB含む)
☆初心者対象のグループ(登り、滑りがゆっくりな人)を設けます。
7. 申込み 藤木 晴夫(指導委員山岳スキー運営委員会)宛に郵送/Fax 又はE-メール
Tel&Fax 0143-85-5897 e-mail fuji8ma@nifty.com
8. 携行品等 藤木委員長宛問合せ

日山協競技委員会フロック別研修会 競技委員会

1. 期 日 平成27年3月7日(土)～8日(日)
2. 会 場 道立職業能力開発支援センター 011-825-2385
札幌市白石区東札幌5条1丁目1-2 (札幌コンベンションセンター隣り)
3. 参加資格 ①日山協公認ライミング競技C級審判員認定研修

- ②競技運営員認定研修
- ③競技運営研修(兼競技委員長・監督合同会議)
- 4. 参加費 3,000円(「国体山岳競技規則集」26.5改訂版ない方はテキスト代1,000円)
- 5. 内容 7日(土) 12:30-13:00 会場で受付
 - ①クライミング競技C級審判員認定研修 10.5時間(1時間は筆記試験)
 - ②競技運営員認定研修・競技運営研修 各8時間
- 8日(日) 研修終了 ①15:00 ②12:00
- 6. その他 C級審判員筆記試験合格者の認定登録料 3,000円(合格確定後徴収)
認定はH.27.5以降(手続きは日山協から連絡あり次第案内)
- 7. 申込み 山納 秀俊宛に申込書を郵送又はFAX,メール **平成27年1月31日(土)必着**
〒047-0028 小樽市相生町9-13 アメニティ相生ⅡB-202号 山納 秀俊 宛
TEL 090-2816-2241 fax 0134-24-6365 e-mail h-sannoh@hokkaido-c.ed.jp

指導員更新業務

山岳指導員(指導員・上級指導員)

平成27年10月更新対象者の受付業務は、平成27年2月1日から業務開始。指導委員会より対象者に「山岳スポーツ指導員更新資格申請書」を2月中旬に郵送。更新申請書を期日までに指導委員会に提出するとともに、更新審査料3,000円を指定の口座に振り込みする。

日体協更新登録の厳格化により、義務研修未受講者はその後の更新登録ができませんので注意願います。今年度の受付までの義務研修事業は、平成27年1月17-18日「氷壁技術研修会」と同1月24-25日「山岳スキー技術研修会」のみとなります。

問合せ ⇒ 道岳連指導委員会 藤木 晴夫 TEL&Fax 0143-85-5897 e-mail fuji8ma@nifty.com

自然保護指導員

今期更新対象者及び新規登録希望者については、所属岳連・山岳会に平成26年3月及び8月に通知済み。手続きは平成27年2月22日を締切としているので、申請書未提出の岳連、山岳会は取りまとめのうえ早めに申請書提出と登録・更新料の振込を願いたい。登録・更新申請書は、パソコン入力様式(ワード・エクセル)を作成しているので、必要に応じEメールで連絡ください。

問合せ ⇒ 道岳連自然保護委員会 内藤 美佐雄 TEL&Fax 0166-92-2790
e-mail piye_naitou@amail.plala.or.jp

平成26年度林道・登山道情報

北海道森林管理局・表大雪地区登山道関係者による情報交換会・大雪地区自然公園指導員連協例会 情報

通行規制・規制解除林道

鹿島林道(規制解除) … 夕張岳
層雲峡本流線林道(規制解除) … 沼ノ原・五色岳
糠南支線林道(規制解除) … 南クマネシリ岳
由仁石狩林道(規制継続) … ユニ石狩岳・音更山(上川町側登山口)
台地林道(規制継続) … 扇沼山・三川台(上俣真布林道は通行可)
支然別支線林道(規制継続) … ウペペサンケ山(菅野温泉コース)
ヌブントムラウシ林道(規制継続) … ヌブントムラウシ温泉・沼ノ原

